

令和2年度 いなば大豆栽培こよみ



目標 単収200kg/10a

いなば農業技術者協議会

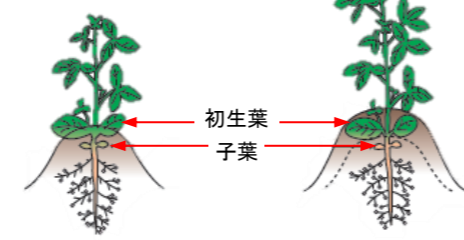
生育のイメージ

最重点技術対策

- ・土づくりの徹底
- ・排水の良いほ場づくり
- ・適正なは種作業
- ・雑草の対策
- ・的確な中耕培土
- ・干ばつ回避の畦間かん水
- ・病害虫防除の徹底



1回目培土
本葉2~3枚時



2回目培土
本葉4~5枚時



※排水対策の徹底で根粒菌増加を図る！！



5月

6月

7月

8月

9月

10月

土づくり・排水対策

は種適期

発芽期

草丈・節数増加期

花芽分化期

開花期 ~ 莢伸長期

子実肥大期

黄葉期~落葉期

成熟期

①排水対策

④耕起・畦立・は種

除草剤による除草

⑧1回目防除

②土づくり

⑤初期除草剤

⑥1回目培土

⑦畦間かん水

雑草の抜き取り
汚損粒の防止

⑨収穫

⑩緑肥作物

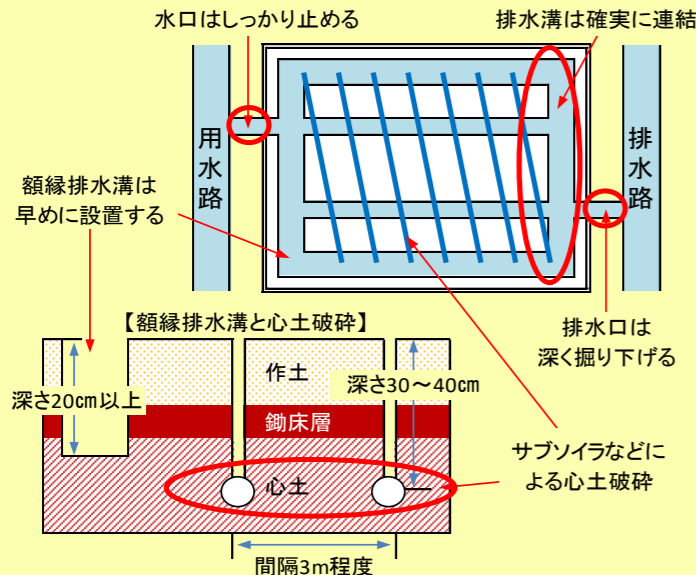
③種子塗抹処理

⑥2回目培土

⑧2回目防除

①排水対策

前年秋~4月まで額縁排水や心土破碎を行う



④耕起・畦立・は種

- ・耕起~は種の一連の作業は、ほ場が乾いた状態で1日で実施する
- ・耕起の深さは15cm以上を目標とし、根域を広げる
- ・砕土率は60%以上の確保や畦立同時播種による苗立の安定化
- ・播種深度3cmを目標とし、浅まき、深まきに注意

基肥	10aあたり施用量	備考
BB基肥084	20kg (麦跡30kg)	N-P-K 10-18-24

・早すぎる播種を避け適正な栽植本数を確保する

品種	は種時期	は種粒数 粒/m	栽植本数 本/10a	は種量 kg/10a
えんれいのそら	5月26日~6月10日	12~14	14,000~16,000	5.3~6.1
	6月11日~20日	14~17	16,000~18,000	6.1~6.8
シュウレイ	5月26日~6月10日	11~13	12,000~15,000	4.7~5.9
	6月11日~20日	13~17	15,000~18,000	5.9~7.0

⑤初期除草剤(土壌処理除草剤)

- ・は種後~出芽前、土壌が湿っている間に散布する
- ・難防除雑草は、ほ場周辺で早期に除去しましょう

薬剤名	10aあたり散布量	総使用回数
トレファノサイド粒剤25	4~6kg	1回
プロールプラス乳剤	400~600mL/水75~150L	2回



(茎葉処理除草剤)

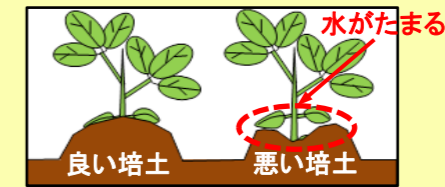
薬剤名	対象雑草	散布時期	10aあたり 散布量	総使用 回数
ポルトフロアブル	イネ科1年生雑草 (スズメノカタビラ除く)	雑草生育期 (雑草3~10葉期) 収穫30日前まで	200~300mL (水50~100L)	1回
バスタ液剤	1年生雑草	大豆5葉期~雑草生育期 (畦間・株間処理) 収穫28日前まで	300~500mL (水100~150L)	3回
大豆バサグラン液剤	1年生雑草 (イネ科を除く) 雑草生育初期~6葉期	○畦間処理 大豆の生育期 収穫45日前まで ○全面散布 大豆2葉期~開花前 収穫45日前まで	300~500mL (水100L) 100~150mL (水100L)	1回
アタックショット乳剤	1年生広葉雑草	○全面散布 大豆2葉期~開花前 収穫45日前まで	30~50mL (水100L)	1回

⑥中耕・培土

培土は株元までしっかりと！ 2回培土の完全実施！！

培土の4つの効果

1. 雑草を抑える
2. 倒伏を防ぐ
3. 根と根粒菌を増やす
4. 湿害を防止する

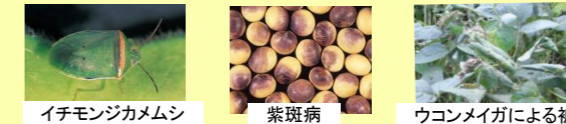


⑦畦間かん水

- ・開花期~9月上旬頃まで、3日以上晴天が続いたら、土壌の乾きに応じて畦間かん水を行う
- ・ほ場全体に水が行き届いたら、水口を止め速やかに排水する

⑧病害虫防除

- ・『基本防除』は確実に2回行う
- ・『随時防除』病害虫の発生状況に応じて速やかに行う



農薬の使用基準を守り、周辺に飛散しないように注意しましょう

⑨収穫

- ・英色の熟色(褐色)が収穫時期
- ・子実水分22%から収穫開始



- 地際から10cmの刈取り高さ
- 収穫前の雑草の抜き取り

⑩緑肥作物(翌年度作付ほ場)

緑肥	は種時期	は種量
ヘアリーベッチ	9~10月	3~4kg/10a

栽培技術のポイント

②土づくり

- ・土壌pH6.0~6.5を確保するためアルカリ資材を散布する
- ・堆肥等、有機物の積極的な施用で地力増進を図る

資材	10aあたり施用量	備考
砂状ケイカル	100kg以上	酸度矯正
牛ふん	1t	地力の向上
醗酵ケイフン	100~200kg	

③種子塗抹処理

種子1kgあたり

薬剤名	使用量	備考
クルーザーMAXX	8mL	アブラムシ類・ネキリムシ類 フタスジヒメハムシ・茎疫病 紫斑病・タネバエ等

※は種する2~3日前に行う

体系	対象病害虫	防除時期	薬剤名	10aあたり 散布量	総使用 回数	収穫前 日数	
基本防除	紫斑病、カメムシ類、マメシクイガ	1回目(8月初旬)	スミチオンベルコート粉剤DL	3kg	4回	21日前まで	
		2回目(8月中旬)	Zボルドートレボン粉剤DL	3~4kg	2回	14日前まで	
	紫斑病・カメムシ類、ウコンメイガ、マメシクイガ、ハスモンヨトウ	1回目(7月下旬)	プランダム乳剤25	30~50mL	水	2回	7日前まで
		2回目(8月中旬)	プレバソフロアブル5	37.5mL	150L	2回	7日前まで
随時防除	葉焼病	7月下旬頃	撒粉ボルドー粉剤DL	4kg	-	-	
			Zボルドー	300mL	水150L	-	-
	ハダニ	7月下旬~	マラソン粉剤3	3kg	3回以内	7日前まで	
			マラソン乳剤	50mL	水150L	3回以内	7日前まで
アブラムシ類 カメムシ類	7月下旬~	トレボン粉剤DL	4kg	2回以内	14日前まで		
		トレボン乳剤	150mL	水150L	2回以内	14日前まで	
ウコンメイガ	7月下旬~ 8月上旬	サイアノックス粉剤DL	4kg	2回以内	7日前まで		
		プレバソフロアブル5	37.5mL	水150L	2回以内	7日前まで	